

鳥獣害から菜園を守る

菜園シーズンが始まると、楽しみな収穫に向けての栽培管理が忙しくなります。手間をかけ大切に育てた農作物を守るためにも、冬の間に確実な鳥獣害対策を計画・確認しておきましょう。

せっかくの鳥獣害防止柵も

こんな設置の仕方をしていませんか？

- 1、林地近くに設置している
- 2、用水路等の凸凹で隙間ができています
- 3、下草が伸びている

せっかく鳥獣害対策を行っても、部分的になつてしまつていたり、誤つた設置方法ではほとんど効果がなない場合があります。鳥獣害防止柵の正しい設置により、大切な農作物を守りましょう。

種類別 対策ポイント

「防鳥ネットとテグス」

網目が小さいほど防鳥効果が高く、ヒヨドリでは30mm以下、カラスでは75mm以下を用います。被害を受けやすい野菜にはトンネル状や浮き掛け状に覆うのが効果的です。また、防虫用のネット資材（寒冷紗かんれいしゃなど）を流用するのも有効です。

カラスは翼が障害物に触れるのを嫌うためテグス

を縦横に張り巡らします。カラスの翼長（両方の翼を開いた時の長さ）は1m程度になるので、これより狭く張ります。

「べた掛けで種を守る」

豆類などの大きい種はカラスやハトの格好の餌になり、種まき後、本葉が出るまでが被害に遭いやすいので注意が必要です。べた掛け資材は本来の発芽促進、虫害の予防などに加えて防鳥効果も期待できます。

「ネットや柵が目隠しをする」

イノシシには餌になる野菜が見えないようにトタンなどの柵で菜園を目隠しします。高さ1m程度の柵では簡単に跳び越えてしまいますが、柵の前にネットなど足に絡むものを配置して、踏み切り位置を遠くすると良いでしょう。

「電気柵の利用」

電気柵には高電圧の電気が流れ、これに触れた獣類はショックを受け退散します。ハクビシンは小型のため、電線の下をくぐり抜けやすいよう、できるだけ低く張ります。電気柵の漏電を防ぐために、除草するなど定期的な管理が大切になります。

※注意

電気柵の誤った設置により死傷者が出る事案が発生しています。設置の際には付属の取扱説明書をよく読み正しい設置を行ってください。

各機関による支援

鳥獣害防止柵等の設置に掛かる費用の助成支援を、各市、岐阜県農業共済組合（NOSA）において行っています。支援を希望される方については、詳細な助成内容等を各窓口へご相談ください。

表1 防鳥資材の特徴

資材名	設置のポイント	対象鳥類
防鳥ネット	網目が細かいほど効果が高い。	カラス、ヒヨドリなど
テグス	1m間隔で張り巡らす。スイートコーンは穂の頂部や上側に張る。	カラス
被覆資材	寒冷紗などをトンネル状に被覆する。不織布をべた掛けする。	カラス、ハト
反射テープ	キラキラと光るテープを野菜の上に張り巡らせる。	スズメなど

表2 防護柵の特徴

資材名	設置のポイント	対象獣類
トタン板	中が見えないように隙間なく設置。	イノシシ
金属フェンス、ワイヤーメッシュ	イノシシは1.5m以上、シカは2m以上の高さ。	イノシシ、シカ
ネット	ネットを防護柵の手前斜めに垂らして、脚にからまって跳躍しにくくする。	イノシシ、シカ、サル
電気柵	漏電防止のため除草を頻繁に行う。	イノシシ、シカ、サル、ハクビシン、アライグマ
ネットと電気柵の複合型	ネットを登ったところで、電気ショックを与える。	サル、ハクビシン、アライグマ

